

会議結果概要書

1. 会議名	平成30年度 第1回名寄市上下水道事業経営審議会
2. 開催日	平成30年8月7日（火）午後6時30分～午後8時00分
3. 開催場所	駅前交流プラザ「よろーな」 2階 会議室3
4. 委員	池会長（○）、山上副会長（○） 大野委員（○）、関委員（○）、扇谷委員（○）、伊豆倉委員（○）、 木田委員（×）、小池委員（×）、白木委員（×）、月田委員（×） ※委員10名中6名出席
5. 事務局	橋本副市長 天野建設水道部長、粕谷建設水道部次長（兼上下水道室長） 佐藤業務課長、池田業課主幹、鈴木工務課長、藤井浄水場長、 西村下水処理場長、神田業務課主査、阿部業務課主査
6. 議題等	報告1 「名寄市水道事業経営戦略」について 報告2 上下水道事業経営状況について 協議1 水道料金の改定について
7. 会議結果	○報告1 「名寄市水道事業経営戦略」について ・前回審議した「経営戦略」のパブリック・コメント結果の報告 ○報告2 上下水道事業経営状況について ・平成29年度決算見込及び平成30年度予算の報告（水道・下水道・個別排水事業） ○協議1 水道料金の改定について ・水道事業の経営状況、課題、経営の見通し、他市との比較、料金改定の考え方などについて事務局より説明する。 ・主な意見、質疑等は別紙1のとおり ○次回開催日程の確認 （日程）平成30年8月27日（月）（予定） （内容）料金改定（案）の意見集約、審議会意見の決定

(別紙 1)

平成30年度 第1回名寄市上下水道事業経営審議会 主な意見・質疑等

1. 意見について

問 今後の事業計画において、老朽管の更新は年間どのくらいの延長を見込んでいるのか。データによると老朽管を更新することによって有収率が上がっている状況もみられるが、ここ数年は老朽管更新を縮小し有収率が下がってきている。今後の事業計画では老朽管更新事業費が少ない年度もあり、この先有収率が80%を切ってしまう状況となるのはどうなのか。老朽管更新を優先するべきではないか。

答 これまで、耐用年数が経過した配水管である老朽管を、平成23年度から平成25年度にかけて年間5,000mの更新を進めた結果、平成26年度は有収率が向上していますが、平成26年度以降は他の事業を優先したため年間2,000m程度に縮小したこともあり、有収率は減少傾向にあります。

今後の事業計画では、老朽管更新を含めた建設改良費を4億円で上限設定し計画しており、その中で老朽管の更新延長は平成31年度約4,500mを見込んでいますが、平成32年度以降は拡張事業や浄水場施設改修など他の事業とのバランスから年間平均1,500m程度しか見込めない状況です。管更新の単価は1m当たり約30,000円であり、年間約6,000m増加している老朽管を更新するには1億8千万円の事業費が必要であるため、既に工事を予定している拡張工事完了後に、あらためて浄水場施設改修とのバランスを考えながら老朽管更新の計画を検討したいと考えています。

2. 質疑について

問 一般家庭の平均水量が12m³であり、同様に平均改定率としたとの説明を受けたが、一般家庭はどの口径が多く、口径の違いによってどのような影響があるのか。

答 名寄市の水道料金は口径別を採用しており、個人住宅の多くは口径13mmの水道メーターを設置しています。口径の違いにより、一度に使用できる水量が増えるので、口径20mm以上は、2世帯住宅や3階建て以上の上部階で使用する集合住宅などに設置している場合が多く、口径25mm以上の使用者はほとんどが事業所です。

合併前、旧風連町は口径別、旧名寄市は用途別の料金体系であったため、平成20年度料金統一で口径別に統一しました。それまで用途別に家事用と事業用とに分かれていた名寄地区の住宅は、口径別に料金の違いが無かったため、口径20～25mmを設置している個人住宅も多かったのですが、口径別料金に変更した平成20年度以降のメーター交換時に、大半が口径13mmに変更しているため、現在口径13mmの使用者は9割を超えています。